

（午前9時30分 開議）

○議長（石橋英和君）おはようございます。
ただ今の出席議員数は22人で全員であります。

○議長（石橋英和君）これより本日の会議を開きます。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（石橋英和君）これより日程に入り、
日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により、議長において1番 今城君、14番 辻本君の2人を指名いたします。

日程第2 一般質問

○議長（石橋英和君）日程第2 一般質問を行います。

順番8、6番 小西君。

〔6番（小西政宏君）登壇〕

○6番（小西政宏君）皆さま、おはようございます。6番 小西政宏です。議長のお許しをいただきましたので、通告に従い一般質問させていただきます。議員になって初めての質問で、大変緊張しておりますのでお聞き苦しい点もあると思いますが、ご答弁、よろしく願いいたします。

私が質問させていただきますのは、若い世代の政治への関心についてです。

2011年の橋本市議会議員選挙の投票率は、63.99%でした。ということは、約6割の声
が橋本市に反映されやすいと考え、また投票
に行かなかった残りの4割の声は届きにくい

のではないかと考えております。

私も20代の議員として、その現状を直接肌
で感じており、その投票率が若者世代の間で
低いことは、そのまま政治の関心のなさに直
結しているのではないのでしょうか。

これからの橋本市を担っていく若者世代が
橋本市政に参加しないと、未来の橋本市のビ
ジョンが描けないのではないのでしょうか。未
来の橋本市において、若者世代の政治への参
加、興味、関心を持ってもらうことが重要な
ことであると私は考えており、質問をさせて
いただきます。

一つ目、若者が政治に無関心であると言わ
れている現状を、市長はどのようにお考えで
すか。

二つ目、現在国のほうでは、国民投票また
投票権など賛否両論、議論されておりますが
現行の法律制度の中においては、一番最初に
政治というものに係る機会が選挙であり、間
接民主主義制をとっている日本では、自分た
ちの代表者を決めるものであります。選挙に
行くことも、若者が政治にかかわる一つの機
会であると考えますが、本市の現状はどうで
すか。

壇上からの質問を終わりたいと思います。

○議長（石橋英和君）6番 小西君の若い世
代の政治関心に関する質問に対する答弁を求
めます。

市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）小西議員のおただしの
若者が政治に無関心であると言われている現
状についてお答えをします。

若い世代の政治離れや選挙での投票率の低

下は、議員同様、私も大変憂慮しているところ です。

選挙は、国民の意思を政治に反映させるための大変重要な制度で、議会制民主主義の根幹をなすものであると考えています。

国においては、公職選挙法が改正され、昨年7月執行の参議院通常選挙からインターネットによる選挙運動が解禁されるなど、新しい形での選挙が始まっています。

若者への情報発信については、インターネットが大きな役割を果たしていることから、これを十分に活用した情報提供に努める必要があると考えています。低コストで双方向のコミュニケーションが可能なインターネットは、若者の政治参加の機運を高める上でも有効な手段であり、政治への関心も、そういう面では高まるのではないかと考えています。

また、若い方に市政や議会への関心を持ってもらうことは、若い世代への市政への参加を促すことになり、また私が進めております市民協働のまちづくりについても、大きな役割を担っていただけるものと考えています。

市といたしましても、今後も若者の政治離れを防ぐために、選挙管理委員会をはじめ関係機関と十分連携を図りながら、防災行政無線や広報車等による投票の呼びかけ、広報誌ホームページ、フェイスブック等による情報提供など、さまざまな手段を講じ、政治や選挙に対する意識の高揚を図るため、より効果的な対策について積極的に取り組んでまいりたいと考えています。

以下、残余の件につきましては、担当参与より答えさせていただきます。

○議長（石橋英和君） 選挙管理委員会事務局長。

〔選挙管理委員会事務局長（森本芳克君）登壇〕

○選挙管理委員会事務局長（森本芳克君） 皆さま、おはようございます。

次に、選挙に行くことも、若者が政治に携わる一つの機会であると考えているが、本市の現状はどうかとのご質問にお答えいたします。

まず、若い世代の投票の現状についてですが、国政選挙時において本市の標準的な投票所として、第17投票区上兵庫地区、中島地区を選定し、総務省に報告しており、平成24年12月16日執行の衆議院議員総選挙では、20代で49.57%、30代で58.04%となっています。また、平成25年7月21日執行の参議院議員通常選挙では、20代で34.19%、30代で49.50%となっています。

総務省が公表している数字では、衆議院議員総選挙において、20代で37.89%、30代で50.10%、参議院議員通常選挙においては、20代で33.37%、30代で43.78%であり、本市の場合のほうが若干高い状況ではありますが60代の投票率が70%を超えていることからすれば、議員ご指摘のように、若者世代の投票率としては低いと言わざるを得ません。

このような状況について、選挙管理委員会としても大変憂慮し、各選挙時においてさまざまな啓発活動を行うことで、若者の投票率向上に努めています。

選挙時に行っている具体的な啓発活動については、市内大型スーパー5店舗において、ポケットティッシュを配布するとともに、店内放送による投票の呼びかけや、市役所庁舎並びに保健福祉センターにおける玄関マットによる投票依頼の啓発、公用車。コミュニティバス、市民病院送迎バスでのマグネット板による啓発、広報車、防災行政無線、ホームページ、フェイスブックを利用した啓発、庁舎内への選挙啓発ポスターの貼付、FMはしもとによる投票の呼びかけ、棄権防止チラシの新聞折り込み並びに各地区公民館への備

え置き、のぼりや懸垂幕の設置、期日前投票所立会人に 20代の若者の起用等を行うことで、若者に少しでも選挙に関心を持ってもらうよう働きかけています。

また、選挙時以外の常時啓発として、成人式当日に、新成人の方々に啓発物資として花の種を渡ししながら、成人になり選挙権を取得されたので、必ず選挙に行ってくださいの言葉を一人ひとりかけながら、啓発活動を行っています。

また、教育委員会と連携し、市内の小・中学校に対して、毎年選挙啓発ポスターの作成依頼を行うとともに、児童会、生徒会役員の選出選挙では、実際の選挙で使用している投票箱、記載台、投票箱の鍵、腕章等を貸し出すことで、子どもたちに体験学習への参加を促し、選挙を身近に感じてもらえるよう働きかけています。

選挙とは、住民の皆さまが政治に参加する大切な場であり、日常生活に密接にかかわる極めて重要な意味を持っています。特に、高齢化が進む日本では、若い方に政治に関心を持っていただき、政治に対して意思表示をすることが重要であると考えますので、若者への情報発信については、従来からの啓発活動に加え、インターネットを積極的に活用した情報提供に努め、投票率向上を図っていきたいと考えていますので、ご理解をお願いいたします。

○議長（石橋英和君） 6番 小西君、再質問ありますか。

6番 小西君。

○6番（小西政宏君） 市長じきじきにもご答弁いただき、本当にありがとうございます。

答弁いただきました中で、20代の投票率、衆議院議員選挙で 37.89%、参議院議員選挙では 33.37%と教えていただきましたが、やはり国政選挙では主にテレビ、新聞、マスコ

ミだったりなどの報道による投票率の変動が多くあると考える中で、橋本市での選挙、3月に行われました市長選挙また市議会議員の補欠選挙、また来年に行われます市議会議員の選挙におきまして、やはり啓発活動が大切だと考えます。

そういった中で、今ご答弁いただきました中でも、和歌山県下近隣の市町村の中で啓発活動をいろいろと調べさせていただいたのですが、その中でも橋本市というのは本当に力を入れてやっているといると思うんです。

玄関マットもそうですし、スーパーでのポケットティッシュなどなど、本当に力を入れてやっているといるんですけども、その中で、私がやっぱり感じてしまうのが、若者目線、若者に対しての啓発活動、やはり若い世代が選挙に行かないのですから、行かない世代に対しての啓発活動がこれから必要ではないかと私は考えております。

そういった中で、提案と言いますか、早速本題に入らせていただきたいのですが、若い世代に対しての啓発活動といった中でいろいろ調べさせていただいてきました。

堺市のほうとかでは、若者世代に向けて、若者に絞っての啓発活動が本当に力を入れてやっているといるみたいです。その中でも、京都大学の木下名誉教授に調査書及び分析の指導まで受けていただいて、選挙による意識調査を実施し、その結果において最も効果が高いという結果が出たのが、ポスターのほうだったと思うんです。

また、そのポスターを掲示する場所でもそうなんですけれども、やはり若い世代が立ち寄るような場所、電車ももちろんそうなんですけれども、コンビニだったりそういった場所に若者向けにポスター啓発を行っている。コンビニのレジの液晶の画面とかにも、そういったものを広告として出していただいたり

というような事例もありました。

また、前回行われました京都府知事選挙のほうにおきましては、PVと言いますかCM用のコマーシャルなんかもつくっておられまして、ちょっと口頭では説明しにくいんですけども、見ていただくと、本当に若者目線のCMでありまして、そういった若者に対しての啓発が本当に必要ではないかと改めて思う次第なんです。

その中で、やはりCMとかとなってきましたと、予算規模も違えば、政令府とかとももちろん違いますので、それをそのまま橋本市で利用するというのは、私もやっぱり難しいとは思っているのはあるんですけども、市長はじめご答弁いただきましたように、橋本市のほうではフェイスブック等々、あとホームページも使って、本当にさまざまな情報を今まで発信してきていただいていると思います。

そのフェイスブックとかをさらに見ていただくために、文章だけではなくて、そういったプロモーションビデオだったりというのをフェイスブックを利用して発信していただいたりというのが、また若者に対しての情報発信、若者の心に入りやすいような啓発活動ではないかと考えておるんです。

そういった中で、予算の問題も確かにあります。ですけども、堺市のポスターとかでいくと、堺市出身の女優をイメージキャラクターに抜擢してというようなちょっと大がかりなこともあるんですけども、ここで思うのが、若い方で、今橋本市で活動されているミュージシャンだったりマジシャンだったりというような方がたくさんいらっしゃると思うんです。そういった方にご協力いただいて啓発活動のイメージキャラクターなどになっていただくことで、若い世代としても親近感の持ったポスター、またメッセージ性の強いようなのを描いていただきたいと思います。

て言いますのは、今までの啓発活動を見させていただく中で、投票日と選挙に行こうということだけでは、やっぱり若い世代は選挙には行かないと思うんです。何で選挙に行かなくてはならないのではないかというようなメッセージ性といったものを書いたPR活動が必要ではないかと思っております。

例で挙げますと、このまちの命運はあなたの1票に託されるといったようなデザイン性若者向けなのが本当に必要だと考えておりますが、見解のほうをお伺いしたいと思います。

○議長（石橋英和君） 選挙管理委員会事務局長。

○選挙管理委員会事務局長（森本芳克君） 先ほど議員のほうからご指摘いただきましたコンビニの画面でございますけども、ちょうどレジのときに、支払いするときにレジ画面というところで表示されるんですけども、市内の中にはコンビニがたくさんあるんですけども、コンビニの画面を使うということは費用も発生します。そして、コンビニのほうに確かめてみますと、いろいろなコンビニがございまして、橋本市内でコンビニとして対応していただけるのが、ローソンだけという形でありまして、ほかのコンビニは対応していただけないと。その費用につきましても、多額の費用がかかってくると。ほかのコンビニは県下全体とか関西圏全体だったら応じることができるというような状況でございましたので、今後においては、その費用とかも工面しながら、ローソン一つだけでも、コンビニに行く状態というのは若者が、20代、30代というのがコンビニの利用が大半を占めるというような形で、だいたい半分ぐらいがコンビニ利用という形を聞いておりますので、ローソンだけでもそちらのほうに費用を何とか工面しながら取り組んでいけたらなと考えております。

そして、先ほどおっしゃっていただきましたプロモーションビデオ、いわゆるPVでございますけれども、PVにつきましても費用もあまりかからないということで、今後、取り組んでいけたらと考えております。その際には、PV作成という形になりますと、ビデオという形をとって、ユーチューブとかに流していくという形になりますので、ビデオ作成にあたって、若い議員ですので一緒にさせていただきまして、カメラマンにさせていただくとか、監督していただくとかということで、一緒に取り組んでいけたらと考えておりますので、そのときにはよろしくご協力いただきたいと思っておりますので、お願いいたします。

○議長（石橋英和君） 6番 小西君。

○6番（小西政宏君） 前向きなご答弁をいただいて、本当にありがとうございます。

やっぱり僕自身も一緒に協力させていただく中で、啓発活動をさせていただいたら、僕自身も本当にうれしく思いますので、ぜひ来年の市会議員の選挙に間に合うようにご検討いただき、頑張っていたらと思っております。ご答弁いただいて、本当にありがとうございます。

次に、教育長にお伺いしたいんですが、今選挙に行くことを一つのきっかけに政治に関心という中でお話しさせていただいたんですが、政治自体に関心を持っていただくというのも、やはり大事だと思っております。

そういった中で、現在市内小・中学校において、政治への関心について、授業でもあるとは思いますが、ほかに何か取り組まれていることがありましたら、教えていただけますでしょうか。

○議長（石橋英和君） 教育長。

○教育長（小林俊治君） 小西議員のご質問にお答えします。

小学校、中学校、授業以外にというお話で

したけども、まず、小学校、中学校については、社会科の授業、それから生活科、総合的な学習の授業において、将来の選挙権を持つその選挙権行使の大切さについて、発達年齢に応じて学習をしています。

特に、議員おただしの投票率の問題ですがこのことにつきましても、新聞等を用いて、投票率何%であるから君たちはどう思うという、その時々々の投票率に応じての学習も進めているところです。

また、先ほどの答弁にもありましたように投票啓発ポスターの作成につきましても、小・中学校、かなり積極的に取り組んでおりますし、その成果も現れています。

何より私自身が思いますのは、学級における学級会活動、それから児童会、生徒会活動というのは、自分たちの生活をよくする基本的な活動でありまして、PTAそれから教職員、そして児童会、生徒会の活動が、学校をより豊かにするものであると思っております。

そういう意味で、橋本市教育委員会としましても、橋本市生徒会活動連絡協議会を結成しまして、より良い生徒会のあり方について研修を深めているところです。生徒会活動については、直接将来の選挙とつながるものである。そして、学校をよくするものである。この両面から、より一層促進していきたいと思っております。

以上です。

○議長（石橋英和君） 6番 小西君。

○6番（小西政宏君） ご答弁いただき、ありがとうございます。

今答弁いただきましたように、実は私自身教育長が恩師で、中学校時代にすごくお世話になっておりまして、いろいろと学ばせていただいてきたんですが、授業の中でも、社会の中とかで政治また選挙についての授業ももちろんございまして、そういった中で学ばせ

ていただくことがあるんですが、また一つ提案させていただきたいんです。

授業の中で確かにいろんな授業があるんですけども、その中の本当に1時間を、もしよければ市役所のほうから出前授業というか行っていただく中で、本当に選挙、政治だけに対しての時間というのを、特別につくっていただけることができないのではないかと考えておるんです。

と言いますのも、先生方もいろんな方もいらっしゃると思いますので、従来の授業の中でも伝わり方も個々には出てきてしまうのは仕方がないんですけれども、その中で市の職員の方々、選挙、政治にかかわる方々が出向いていただいて説明していただくというようなのも、いいのではないかと、実はお隣の奈良県橿原市のほうでそういった事例もございまして、生徒のほうからまた来てくれよといったような好評な言葉もいただいたと聞いております。

そういう授業を行った後での生徒会選挙へのつなげ方というか、それが本当に生徒会の選挙自体も形が変わってくるのではないかと生徒たちの意識が変わってくる中で、選挙に行かなければ、自分たちがこのまちで生きていく中で損をしていくんだよじゃないんですけれども、そういった部分で授業をまたして行っていただきたい。

確かに学校現場の中でもお忙しいと思うので、今すぐにしていくというご答弁をいただけるとは、私も考えてはいないんですけれど

も、そういったことも検討していただいて、今後考えていっていただきたいと思います。

私から最後になりますが、ご答弁いただいたように、ぜひ一緒になって若者世代の関心を高めるために頑張っていきたいと思っております。関心を持っていただくためにも、もっともっと情報発信をしていき、若者世代に政治に無関心にいられても、政治に無関係ではいられないということを感じていただきたいと思う中で、今回、私も3月に挑戦させていただいております。

その結果、政治に関心を持ち、選挙に行ってもらい、若者の意見を今以上に市政に取り入れることにより、橋本市の10年後、20年後の未来も、若者がずっと住み続けたいまち、また進学、就職等で離れた人に、橋本市に戻りたい、子育てするなら橋本市、老後に住むなら橋本市というようなキャッチフレーズができるようなまちにしていきたいと思っております。

20歳代の議員として、これからも若い世代の声、思いを届けさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。ありがとうございました。

○議長（石橋英和君） 6番 小西君の一般質問は終わりました。